

学習絵本『新・モノ語り』シリーズ第5巻 『夢みる街の“新・モノ語り”』を発売

30万部を突破！

「モノづくり」の楽しさ、不思議さを、もっと子どもたちにわかってもらいたい。そんな思いで発行を始めた学習絵本『新・モノ語り』シリーズ。

製鉄所見学、展示会などで無料配布し、全国の子供たちの他に、主婦、学校関係者、地域でボランティア活動をする皆様などから多くの反響を得ており、約33万部発行する「ロング・セラー」となっている。

『新・モノ語り』シリーズは、月刊総合誌『文藝春秋』に毎月掲載している広告や、営業PR誌『ニッポン・スタイル・マンスリー』からテーマを選び、物語風の絵本している。

これまで頂いた反響はなんと2,000通以上。子どもたちの他に、主婦、学校関係者、地域でボランティア活動をする皆様などから、メールやはがきなどでたくさん、ましの声や感想が寄せられている。

第5巻『夢みる街の“新・モノ語り”』のストーリー

これまでの『新・モノ語り』シリーズでは、地球環境を大切にしながら豊かで快適な生活を送ることや、鉄づくりを通じてものづくりの真髄にある科学の世界を理解しその楽しさを知ってもらうことをテーマにしてきた。

そして今回、10月上旬に第5巻目『夢みる街の“新・モノ語り”』を発売。絵本のテーマは、鉄づくりが街づくりと密接にかかわっていること、そして、鉄鋼製品が街づくりに大いに貢献していること の2点。

5巻目では、「鉄づくりは街づくり」であるということ伝えるために、今ではおなじみとなったキャラクター、ソクラテツ、一鉄、テツミーたちの活躍で紹介している。このお話を通じて、子供たちに、街づくりの大切さを理解してもらい、将来は自分たちの手で未来につながる街づくりをしてもらいたいという思いがこめられている。

物語は、「鉄の知恵袋」ソクラテツが製鉄所づくりの夢を見ることから始まる。思いつくとすぐに実行に移すソクラテツは「鉄づくりの世界的権威」である研究家アルキメテツの指導も受け「どこにあるかわからない海のそば」に製鉄所建設を開始する。助手ロボのテツマロの協力も得て、一鉄、テツミーたちは奮闘努力。

ついに製鉄所が完成。そこで作られた鉄は街の快適さや安全性の向上に役立っている。ここでは、実際に使われている最先端の土木建築技術も紹介している。そして・・・ソクラテツはふと気づく。心豊かな街づくりのためには潤いが必要だと！そこで音楽ホールの建設に取り組み。そして柿（こけら）落としの演奏会を聞きながら、この巻は終わりを迎えるが、ソクラテツたちの「夢みる街」への挑戦はまだまだ続く。



『新・モノ語りシリーズ』

製鉄所の見学者のほか、 科学技術館でも好評

東京・北の丸公園にある日本科学技術振興財団の科学技術館では、4階の「IRON WORLD」で絵本『新・モノ語り』を展示・配布している。

年間57万人が訪れる科学技術館では、学校の社会科見学や修学旅行などの団体に加え、最近では、科学技術に興味を持つ子供たちが親子連れで来るケースも増えている。

科学技術館や製鉄所の見学で絵本を受け取った子どもたちからは、連日のように多くの感想はがきが当社に舞い込んでいる。

*当社ホームページでも、『動く絵本新日鉄の新・モノ語り』をお楽しみいただけますので、ぜひアクセスしてください。

『絵本 新・モノ語りシリーズ』の申し込み方法

<申込先>

官製はがきの場合 〒100-8071 東京都千代田区大手町2-6-3

新日鉄 総務部広報センター「絵本マンスリー係」

webの場合 <http://www0.nsc.co.jp/story/> からお申し込み下さい。

FAXの場合

03-3275-5611

<記入事項>

希望する絵本(以下) 希望部数

第1巻『地球にやさしい新・モノ語り』(2001年7月発行)

第2巻『みんなの地球の新・モノ語り』(2002年7月発行)

第3巻『鉄から生まれる新・モノ語り』(2003年10月発行)

第4巻『鉄の未来の“新・モノ語り”』(2004年11月発行)

第5巻『夢みる街の“新・モノ語り”』(今回発行)

送付先 お名前

e-mail (今後、当社からのお知らせを送付致します)

子供たちから寄せられた葉書の一部を紹介します

頑丈で色々な場面で使える鉄は、これからの地球の未来を一番手助けしてくれるものだと思います。鉄は高温で溶かせば再利用できる優れたものです。スチール製の缶のぼうが、地球や人のため、環境のために大活躍できます。鉄なら多くの環境問題を解決してくれると思います。期待しています。(東京都 小6 男子)

鉄のことを面白く説明していて面白かった。他の本をもらって自由研究は鉄のことを調べたいと思っています。一鉄の変身がすごかった。(東京都 小4 女子)

この絵本を読んで、たたらこと、鉄作りのことがわかりました。以前製鉄所を見学したことはありますが、初めて知ったことがたくさんあって、ためになりました。(東京都 小6 女子)

元製鉄マンから紹介されて読みました。内容ももの作り職人気質で、もったもの作りが社会で評価されてよいのではないかと、そして小学校の教科書にしたい内容だと強く思いました。(熊本市 男性)

夫、娘夫婦、孫二人の6人で科学技術館に行きました。金属の中で一番親しみのある鉄について学びたいと思います。孫たち、友人の教材として役立てます。(兵庫県 男性)

新日鉄の『新・モノ語り』シリーズは、しっかりと読んで勉強しています。地球のために何ができるか考えるときの手助けになりました。有難うございました。この本のおかげで鉄の素晴らしさを知りました。5年生で社会科のレポートの資料としても役に立ち、順調に進みました。日常生活でももっと鉄が増えたらいいなと思います。(東京都 小6 男子)

科学技術館で絵本をもらいました。家に帰ってから読んで、鉄がどうやって作られたかよくわかりました。すごくしっかりした学習になったなと思いました。(東京都 小4 男子)

自由研究で「鉄について」をテーマにした矢先にこの本に出会いました！鉄の知恵袋コーナーでは色々な鉄のことが勉強でき、とてもよい資料になりました。この本を読んで、鉄と私たちの地球との関係を考えていきたいと思いました。(守谷市 小6 女子)

『鉄の未来の新・モノ語り』で鉄のことがよくわかりました。たたらことについてのあたりがとても面白く、わかりやすかったです。だから、もっと鉄のことを知りたいと思ってこの手紙を送りました。(東京都 中1 女子)

鉄について良くわかる面白いストーリーでとても楽しませてもらいました。小学一年生の弟もキャラクターととても大好きになり、鉄についてわかったことをときどき話してくれます。これからも続編を出してください。(東京都 中1 女子)

身の回りにある鉄がどういふうに作られているのかがわかった。鉄の無駄遣いをしないようにするために、一番取り組んでいるのが日本だということをはじめで知った。(東京都 小5 男子)

新日鉄すごい！鉄の他にプラスチックのリサイクルもしているなんて！環境に地球にやさしいことをよく考えているなあ！と思いました。だから私もこれからももっと環境をよくするお手伝いをしたいと思います。(東京都 中3 女子)

「みんなの地球の新・モノ語り」とも面白かった。特に面白かったのは、「中国で選ばれた家」。木の替わりに鉄の骨組みを使うなんて、とても驚きました。学校の宿題でこの本で学んだことを書いたら、「そんなことがあるんだね!」というコメントをもらい、とても勉強になって役に立ちました。(東京都 小6 女子)

科学技術館へよく遊びに行きます。そこで頂いた新日鉄の『新・モノ語り』シリーズ。娘がとても気に入り何度も何度も読み返していました。楽しく勉強になる本だと思います。(埼玉県 小5の娘の母)

昔はどうやって鉄をつくっていたのかがよくわかって、面白かった。学校に絵本が置いてあるので、また読んでみます。勉強になるのでとても楽しみです。(姫路市 小3 男子)

『鉄の未来の新・モノ語り』を読んで、鉄が好きになりました。(松戸市 小5 男子)

私もソクラテスと一緒に旅をしました。自分の知らないことがいっぱいありました。この本の長所は、イラストと一緒に旅ができたり、わかりやすくまとめがあるので、ついつい読み進めたいところです。楽しくて気に入りました。(東京都 小6 女子)

鉄作りの歴史や原理、実際の設備など、素人にもよくわかった。鉄作りを通じて社会への貢献、リサイクル、温暖化への配慮など、新日鉄のポリシーがわかりやすく書かれていて有益だった。孫にもぜひ読ませたい。(三重県 男性)

『鉄と鉄鋼がわかる本』が引き続き好評 11月には第8刷発行、累計約3万部に

昨年11月に(株)日本実業出版社から発行された『鉄と鉄鋼がわかる本』は、11月には第8刷が予定されており、引き続き好評だ。これまで類書がなかったこともあり、ビジネス、学習目的はもちろんのこと、個人投資家などにも読まれているようだ。

取引先商社の中には、100冊単位で購入し実務や社員教育に使用しているケースもある。さらには、海外でも活用され始めており、本書を通じて、普段「鉄」になじみのない方も含めて幅広い人々に、当社のもづくりに関する基盤の確かさ、技術の深さ、対応分野の広さを認識していただくきっかけとなっている。

科学の世界に遡ってものづくりの技術を解き明かし、広範な人々に伝えていく一連の取り組みは、製造業である当社の社会貢献活動でもある。

現在『ニッポン・スチール・マンズリー』に好評連載中の「ものづくりの原点 科学の世界」シリーズをまとめた「続編」を希望する声が、早くも広報センターに多数寄せられている。全国の主要書店にて購入できる。(定価：1,890円)



編集者冥利に尽きる『カラー図解鉄と鉄鋼がわかる本』
これからも「社会に貢献する本」を

(株)日本実業出版社 第一編集部 白井 基夫さん

『カラー図解鉄と鉄鋼がわかる本』が発行されて約1年経ちました。売れ行きは非常に順調で、これまでの販売・出荷実績から、その「威力」にあらためて驚きます。

金属関係の分野は地味な書籍が多く、そのほとんどは、専門職や学生などに向けて書かれているため、書店の担当者も売れた商品をコツコツと棚に補充していくのが主な仕事でした。売れる地域も都会中心で、この本のように地方や郊外の書店でも売れるものではありません。

ところが『カラー図解鉄と鉄鋼がわかる本』は、発売当初から、コミュニケーション術や企業・経営ものなど売れ筋のビジネス書と同等か、それ以上の動きをみせました。ある書店担当者からは「私の分野でこんなに売れる本を作っていただけて感謝しています」という評価まで頂戴しています。

読者にも書店にも評価される本ができるなら、これは編集者冥利に尽きます。例えば、企画当初、新日鉄広報センターから「オールカラーにしたい」と強く要請されたことが、この3万部におよぶ実績につながっています。

「専門書」は、一般的に初版2,000部、最終実績5,000部出れば上々です。しかしこの本は、多少時間はかかりますが、5万部を目指して推移していくと見えています。今後も新日鉄の豊富なリソースを活かし、「より多くの読者にうける本」つまり「社会に貢献する本」を出版していくことができればと期待しています。